

の既往有りの群の方が無い群より MAX-IMT が有意に厚く、女性においては心筋梗塞の既往有りの群の方が無い群より MAX-IMT が有意に厚かった。高血圧、脳卒中、心筋梗塞既往と MAX-IMT 肥厚との間に有意な関連が認められ、特に心筋梗塞既往とに関する報告は今までほとんどなく、今回の結果は頸部超音波検査の重要性を示唆する内容のものではないかと考える。

14. AV タキストスコープを用いた疲労度測定を試み—大学生を対象とした反応時間の測定—

○鈴江 毅¹, 國本政子¹, 須那 滋¹,
万波俊文¹, 平尾智広², 實成文彦¹

(¹香川大学医学部人間社会環境医学講座
衛生・公衆衛生学,

²香川大学医学部人間社会環境医学講座医療管理学)

今回我々は、視覚刺激と疲労の関係の分析に資する基礎データを得る目的で、AV タキストスコープを用いた実験を行った。被検者は大学1年生 45 名であり、刺激の呈示コントロールには岩通アイセック社の AV タキストスコープを使用し、反応キーユニットを使用して反応時間の計測を行った。その結果を前後半に分けて検討したが、どちらにおいても平均反応時間と正答率には有意な相関関係を認めなかった。このことより、正答率が反応時間の長短に影響されていないことが示唆された。また前半に比べて後半には誤答数が少なかったが、このことは「慣れ」を示している可能性がある。これらの結果が、今回の被験者である大学生という集団のみで認められる結果なのか、あるいは疲労を伴う作業の前後ではどう変化するか等、今後さらに多方面から検討していく予定である。



書評

職場における心理的ハラスメント —その認識を高めるために—

著者 M. G. Gassitto, E. Fattorini, R. Gilioli,
C. Rengo, V. Gonik
編者 R. Gilioli, M. A. Fingerhut
監訳 荒記俊一
訳 横山和仁, 澤田晋一, 藤原哲也
発行 労働調査会

心理的ハラスメントは、非論理的行為により労働者に危害を及ぼす従業員虐待の一形態、とされる。本書が紹介している国際機関の調査によると、心理的ハラスメントのうちもっとも頻度の多いものが「言葉による暴力」であり、次いで、職場における「いじめ/脅かし Bullying」と「モビング Mobbing」であるという。モビングとは、集団の一人あるいは複数のメンバー (Mobber) による、標的または被害者となる個人に向けられる攻撃的で脅迫的な行動を指し示すものとされる。

本書は WHO (World Health Organization) が出版した “Raising awareness of Psychological Harassment at Work” の全訳である。職場における心理的ハラスメントは、その影響の大きさにも関わらず、一般労働者のみならず第一線の産業保健スタッフの間でも、十分に理解

されているとは言いがたい。世界的に増加傾向のあるこの問題について、その概念から対処法まで系統的に編み上げられたのが本書である。すでに世界各国で注目され翻訳出版されているが、時期を得て本書を日本に紹介した監訳および訳者の方々の努力に敬意を表したい。

本書の内容を簡単に紹介すると、まず心理的ハラスメントおよび本書でもっとも重要視されているモビングの定義と実態が述べられ、続いて、モビングが引き起こす健康障害、モビングが家庭や社会に及ぼす影響が示されている。最後にモビングの原因、予防、対処法が簡潔に解説されており、読者は心理的ハラスメントについての概観を捉えることができる。本書はたいへんコンパクトで 30 分もあれば一読できる。巻末には参考図書が挙げられており、より深く勉強したい読者への便宜が図られている。

現代の職場において、心理社会的要因は健康関連要因としてますますその重要性を増している。その要因の 1 つ心理的ハラスメントについて日本ではまだ研究が少ない。この問題に立ち向かうには、すべての関係者の努力を結集する必要がある。そのためには、まず、心理的ハラスメントへの注意を喚起することが肝要であり、本書は、この任を果たしている。副題にもあるように、すべての健康専門職、政策決定者、管理職、人事担当者、法曹関係者、労働組合、労働者に一読していただき、現代の職場における重要な課題についての理解を促したい。

(堤 明純, 岡山大学)